

## 令和4年新春記者会見資料

日 時：令和4年1月7日（金） 午前11時～

場 所：市役所2階 庁議室

### ○ 年頭所感

明けまして、おめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和4年の新春を健やかにお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一年の約半分の期間、国の緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点区域の指定などを受けていたことになり、市民並びに事業者の皆様には、感染防止対策を徹底いただくほか、行動・活動の自粛や制限、イベントの縮小・中止、営業時間の短縮など、長期間にわたり我慢を強いられた一年でありました。

幸い、皆様方のご理解とご協力、ご努力によりまして、医療提供体制の崩壊といった最悪の事態は回避することができましたが、年末年始にかけて、諸外国をはじめ国内でも、新たな変異株「オミクロン株」による感染の広がりが確認されるなど、「第6波」を警戒すべき状況になりつつあります。

市民の皆様におかれましては、「マスクの着用」や「手洗い・手指消毒」、「こまめな換気」など基本的な感染防止対策を徹底いただくとともに、「マスク会食」や「黙食」の実践など、感染リスクを避ける行動をしっかりとっていただきますようご協力をお願いいたします。

さて、本年の干支は、「壬寅（みずのえとら）」の年です。壬寅には、「厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎（いしずえ）となる」といった意味があるようでございます。

しかし、迎えた新年も、世界各国では新型コロナとの闘いが続いており、我が国では、行動・活動の自粛や制限により、ひとり暮らしの高齢者や学生、失業された方、一人親家庭の中には、経済的な苦境や孤独・孤立に陥り、必要な支援が行き届きにくくなっているといった実態も浮き彫りになっております。

そのような状況にあって、本市では、独自の「地域福祉教育総合支援ネットワーク」により、民生委員・児童委員をはじめ、地域づくり組織や各関係機関・団体の皆様などと、まちの保健室、地域担当保健師とが連携・協力し、様々な課題を抱える方々を早期に発見し、見守り、寄り添いながら

必要な支援につなげる取組を平成28年度に開始し、以来今日まで、その進化・発展に鋭意取り組んでまいりました。

私は、市民の皆様と築きあげてきた「地域共生社会」の「見守り・寄り添い型の伴走支援」がコロナ禍においてもしっかりと機能していることを改めて認識いたしました。

そして、全国の自治体に先駆けてこうした取組を実施できますのは、私が平成14年に市長に就任し、「福祉の理想郷」の実現を 目指したまちづくりを進めてきた中で、「互助・共助」の精神が地域並びに市民の皆様の心に、しっかりと根付いてきているからだと思わせていただいております。

一方、国内においては、新型コロナウイルス感染症の経口治療薬が開発され、実用化の目途が立つなど、希望の光は差し込んできております。

コロナ禍で当たり前であった常識や価値観が大きく変容しておりますように、コロナ前の世界にそのまま戻ろうとするのではなく、コロナ後の新しい世界を思い描き、様々な変化に挑戦することが求められる一年になるであろうと認識しております。

そういう意味では、名張市政も、これまで、市民の皆様と築きあげてきた「すべての市民の社会参加がかなう地域共生社会」を礎として、地域社会で誰も孤立させず、誰一人取り残さない強い覚悟をもち、「持続可能な地域共生社会の実現」に向けて、更に大きく前進させていく必要があると感じております。

## ○ 令和4年の施策展望

まずもっては、感染状況や経済状況を注視しながら、昨年11月に閣議決定された「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に基づき、新型コロナウイルスワクチンの追加接種をはじめ、「第6波」に向けた感染防止対策や感染拡大により影響を受けている方への支援などに、スピード感をもって取り組んでまいります。

また、令和元年度よりスタートした総合計画「新・理想郷プラン」の第2次基本計画はいよいよ最終年、締めくくりの年となりますが、これまでの進捗及び成果をしっかりと分析し、各施策の目標達成に向けた取組と持続可能な行財政運営に向けた取組を推進してまいります。

また、人口減少に耐え得る魅力的なまちづくりを進めるため、令和2年3月に策定した「第2期名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、総合計画と連動した「元気創造」「若者定住」「生涯現役」の3つの重点戦略を柱とする各種施策を推進してまいります。

4月に市長選を控えておりますので、これまでの継続事業となっている主な施策について、以下のとおり挙げさせていただきます。

## 1. 支え合い 健康でいきいきと暮らせるまち

### (1) 新型コロナウイルス感染症への対応

【医療福祉総務室、健康・子育て支援室】

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、市民の命と健康、暮らしを守るため、県や関係機関と連携し、万全の態勢で地域医療体制の確保や生活支援、感染予防対策などに臨みます。

また、新型コロナワクチン接種については、2回目接種の完了者すべての方に追加接種の機会を提供するべく、医療機関などと連携し、取組を進めます。

### (2) 「性の多様性を認め合うまち・なばり」の推進

【人権・男女共同参画推進室】

令和2年8月に宣言を行った「性の多様性を認め合うまち・なばり」の理念に基づき、昨年9月に制度運用が開始された県の「パートナーシップ宣誓制度」や「性の多様性」を市民に広く周知・啓発し、ダイバーシティ社会を推進します。

### (3) 多文化共生社会の推進

【人権・男女共同参画推進室】

外国人住民に対する日本語学習支援をはじめ、外国人と日本人とが共に地域社会で生活するのに必要な相互理解・環境づくりのための交流推進、外国人住民支援の人材育成、多言語相談窓口の開設など、多文化共生センターの機能を充実させます。

### (4) 地域福祉教育総合支援ネットワークの推進

【地域包括支援センター】

本市が誇る“地域力”を生かした地域の社会資源・仕組みなどを基盤に、「地域福祉教育総合支援ネットワーク」による高齢者、障害者、子ども、生活困窮、教育などの各分野を横断する多機関連携を推進します。合わせて、ヤングケアラーの支援を含む孤独・孤立対策

など、制度の狭間や社会的孤立などの課題解決に向けて、相談・支援体制を拡充します。

また、「地域共生社会」の実現に向けて、専門職（リンクワーカー）による伴走型支援や、情報技術も積極的に活用した地域のニーズに応える社会資源の創出など、「社会的処方」による支援機能を充実させるとともに、必要な人材のスキルアップなど見守り体制を整備します。

**(5) 地域医療体制の充実** **【市立病院 総務企画室】**

本年度策定予定の「第3次名張市立病院改革プラン」に基づいて戦略的に経営改革を進めるとともに、昨年12月に設置した「名張市立病院在り方検討委員会」において、市立病院の目指すべき将来像やその役割について検討を進めます。

また、「地域包括ケア病棟」を効率的に運用し、在宅医療や地域包括ケアシステムの更なる推進につなげます。

なお、市立病院では、ウィズコロナ、アフターコロナに対応した万全の感染対策を講じ、市民に安心して受診いただける院内環境を整備します。

**(6) 健康寿命延伸に向けた取組の推進** **【健康・子育て支援室】**

市民が主体的に取り組む健康づくりを総合的に支援し、特定健診やがん検診の受診率向上、生活習慣病予防に取り組めます。

また、「名張ケンコー！マイレージ事業」を通して、健康に無関心な層の行動変容と社会参加の機会を拡大し、新型コロナウイルス感染症の予防対策を実施しながら、地域づくり組織や関係機関と連携し、一層の健康寿命の延伸に向けた取組を進めます。

後期高齢者への保健事業と介護予防の一体的実施事業では、運動や口腔、栄養などのフレイル対策に取り組み、住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう支援を進めます。

**(7) 妊婦応援都市の具現化に向けた取組の推進**

**【健康・子育て支援室】**

「名張版ネウボラ」の更なる推進、多様な保育や地域の子育て支援の担い手となる「子育て支援員」の養成・活動支援に取り組めます。また、「こそだてサポーター」の輪を広げ、社会全体で子どもの育ちを支える風土づくりを進めます。

(8) 放課後児童クラブの運営と施設整備の推進 【子ども家庭室】

定員を超える利用が見込まれる放課後児童クラブの施設整備を順次進めており、令和4年度は桔梗が丘南小学校のクラブ室を拡充する予定です。今後も、利用を希望するすべての児童の受入ができるよう施設の拡充などを進めます。

(9) 多様化する保育ニーズへの更なる対応 【保育幼稚園室】

少子化や幼児教育・保育の無償化を背景に、公立幼稚園の園児数が大幅に減少している中、就学前の教育環境を確保するため、公立幼稚園2園と公立保育所1園を統合し、民営の認定こども園として令和6年度に開園する予定です。

令和4年度に実施する移管先法人の公募にあたり、移管要件として、心理的ケアなどの社会的養護への一層の取組や特色あるサービスの提供を盛り込むなど、多様化する保育ニーズへの対応を進めます。

## 2.美しい自然に包まれ 快適に暮らせるまち

(1) 安全で安心なまちづくり 【危機管理室】

近年、激甚化・頻発化している台風や集中豪雨などによる自然災害に備えて、「洪水・土砂災害ハザードマップ」を更新するなど、防災・減災対策に取り組めます。また、市民や関係機関と連携し、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた防災訓練を実施するなど、市全体の防災力を向上させます。

(2) 消防力の強化について(伊賀市との消防連携・協力)(大規模災害への備え) 【名張市消防本部】

伊賀市と「消防連携・協力に関する協定書」を締結し、業務連携や災害時の相互応援などで消防力の強化を図るとともに、令和6年度からの消防指令業務共同運用に向けて、共同消防指令センターの整備を進めます。

また、大規模災害の発生に備えて、地域防災の要となる消防団員や消防団活動協力員の確保に取り組むとともに、発災時、緊急消防援助隊などの応援要請や受入れが迅速に行えるよう「消防受援計画」に基づく訓練及び検証を行うなど、受援体制を強化します。

(3) 名張川河川改修事業の推進 【道路河川室】

国土交通省「淀川水系河川整備計画」に基づく名張川引提事業の早期完了に向けて、引き続き、国に強く要望し、市も事業推進に協力します。

また、引堤事業を通して一帯の地域活性化・観光振興の促進を図る「名張かわまちづくり計画」では、自然環境を生かした水辺と親しめる「親水空間」の整備構想の検討を行い、令和4年3月には階段護岸の一部が完成する予定です。引き続き、左右岸一体となった施設整備に取り組みます。

(4) 水道施設の更新や公共下水道整備、下水道施設の改築・更新

【上下水道部】

上水道事業では、「第2次名張市水道ビジョン」に基づき、計画的に施設の機械・電気設備や老朽管の更新工事を進め、ライフラインの確保に努めます。

下水道事業では、北部地域に公共下水道区域を拡大して整備を進めるとともに、中央浄化センターにおける生活排水処理施設の新設並びに水処理施設の増設工事を進めます。

また、既存下水道施設については、ストックマネジメント手法を活用した改築・更新計画に基づく取組を進め、農業集落排水施設においても、機能強化対策と併せ、維持管理適正化計画の策定に取り組みます。

(5) 空き家対策の推進 【営繕住宅室】

移住定住支援としての移住者向けリノベーション事業補助や空き家バンクなど空き家の利活用促進事業に加え、空き家の適正管理・利活用が困難な著しく危険な空家等の除却支援についても、積極的に取り組みます。

(6) 地籍調査事業の推進 【用地対策室】

令和2年8月に策定した「第2次名張市地籍調査事業実施計画」に基づき、土地利用の促進、大規模災害時の迅速な復旧・復興事業に寄与する地籍調査事業を推進します。

### 3. 活気に満ちて暮らせるまち

#### (1) 多彩な担い手が活躍する「なばり農業」の推進 【農林資源室】

担い手不足による耕作放棄地の増加が進む中、地域農業の将来ビジョンを定める「人・農地プラン」の策定を推進するとともに、令和4年度からは固定資産税減免制度を創設し、担い手への農地の集積が進むよう環境を整えます。

また、高収益作物の生産拡大につながるよう、名張野菜の特産品化、既存の特産物のブランド力向上に取り組み、多彩な担い手が活躍する「なばり農業」の推進を目指します。

#### (2) 農山村地域の公益的機能の維持・発揮 【農林資源室】

多面的機能支払交付金による地域の共同作業の支援や「農村地域防災減災事業」によるため池耐震調査などに取り組みます。

また、森林環境譲与税の活用により、森林所有者自らが管理できない森林を市が計画的に経営管理権を取得し、間伐などを行うことにより、森林環境保全を図ります。

#### (3) 地域産業の振興 【商工経済室】

コロナ禍において、ライフスタイルや事業者に求められるニーズが大きく変化する中、事業承継の取組の経験を活かしながら第二創業、事業再構築を支援することにより、地域産業の振興を図ります。

また、コロナ禍で資金繰りや補助金交付に関する相談が非常に多いことから、新設する協議会では、借入金返済や融資制度に係るアドバイスを行うなど、事業者ニーズを捉えた事業所支援を実施します。

#### (4) いきいきと働けるまちづくり 【商工経済室】

「セカンドキャリア」を求める人材の支援や、新しいことに挑戦したいと考えるすべての人の背中を押せる環境づくりを目指して、就労の底上げを図ります。合わせて、コロナ禍において、第二創業を中心とした事業者の業態転換や新分野への進出などによる更なる価値創造に取り組む中で、新たな雇用の創出を目指します。

#### (5) 観光の振興 【観光交流室】

サイクルツーリズムの展開や観光事業者向けのDX導入支援など、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた事業を推進します。合わせて、

観光総合プランナーとしての「地域おこし協力隊」を導入し、広域的な観光産業の活性化を図ります。

#### 4. 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち

##### (1) 小・中学校の施設整備 【教育総務室】

児童生徒の安全安心な学習環境整備と防災機能の強化のため、トイレの洋式化なども含め、計画的に施設改修を進めます。また、中学校給食については、引き続き、導入に向けた課題整理や検討を進めます。

##### (2) GIGAスクール構想の実現 【学校教育室】

市内すべての小中学校で、児童生徒一人1台の学習用端末を活用した授業を一層充実させるとともに、家庭学習においても学習用端末が利用可能な環境整備を進めるなど、今後も、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのないよう「公正に個別最適化された学び」を持続的に実現します。

##### (3) 三重県文化会館と連携した文化事業への取組

【文化生涯学習室】

三重県文化会館との共催により、次の3事業を開催する予定です。

###### 【みえ県展 名張移動展】

会期／令和4年6月11日(土)～15日(水)の5日間

会場／武道交流館いきいき

###### 【三重県文化会館アートプロジェクト】

「介護を楽しむ」「明るく老いる」演劇公演

日時／令和4年11月27日(日) 午後2時開演予定

場所／adsホール 講師／菅原 直樹(すがわら なおき)

※入場について／コロナ禍のため 300名を対象

※入場料として、1,000円を徴収予定

###### 【茂山狂言会】

県文化会館で開催される『茂山狂言会』のプレステージに「名張子ども狂言の会」の出演が決定しました。

日時／令和5年1月14日(土) 午後(未定)

場所／県文化会館 中ホール

## 5. 未来につなぐ自立と協働による市政経営

- (1) 行財政改革の更なる取組 【行政改革推進室】  
総合計画「新・理想郷プラン」第2次基本計画に掲げる「持続可能な行財政運営に向けた取組方針」の進捗状況を踏まえつつ、更なる行政運営の効率化を図り、総合計画に掲げる施策を効果的に推進します。また、引き続き、公共施設などの有効活用や持続可能な財政基盤の確立に取り組めます。
- (2) 移住・定住の促進 【地域活力創生室】  
都市部から地方への移住や二拠点居住への関心が高まる中、地方暮らしに関心を持つ層に向けて、本市の強みである豊かな自然環境、大阪・名古屋へのアクセスの良さ、「地域共生社会」の推進による魅力ある子育て・教育環境、「農」ある暮らしや多様な働き方の選択肢を提案するなど、移住・定住促進や関係人口創出に向け、効果的なシティプロモーションを行います。
- (3) 協働のまちづくり 【地域経営室】  
地域づくり組織が自主自立し、更なる発展した組織になるよう支援し、連携・協働しながら、「地域共生社会」の具現化に向けた取組を進めます。
- (4) マイナンバーカードの更なる普及促進 【総合窓口センター】  
「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」の実現に向けて、デジタル社会形成の基盤となるマイナンバーカードの更なる普及促進に取り組めます。

### ○ むすびに

以上、年の初めにあたり、主な施策を申し上げました。  
本年も旧に倍するご支援ご鞭撻を賜りますようよろしく願いいたします。